

令和５年度 教育活動評価アンケート結果について

- 実施日：令和５年１２月４日(月)～１２月１３日(水)
- 回答率：生徒91.8%（前年比- 2.7%）、保護者53.3%（-12.4%）、教職員100.0%（+2.6%）
- 質問項目：令和５年度「教育活動評価アンケート」質問項目一覧

質問項目（○数字は質問順）		質問内容（全ての質問の冒頭に「仙台大明成高校では、」を足して答える。）
1 学校運営	⑧防災教育	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている
	⑨開かれた学校づくり	ホームページやお便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている
	⑩施設設備	本校の令和３年度から新しくなった施設・設備はよく整備されている
	⑭総合満足度	全学年４つの学科となり、所属している学科の学習や取組は充実している
2 重点年度項目の	⑦特色ある学校づくり	『建学の精神』に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる
	⑪いじめ問題	学校として、日ごろからいじめの早期発見に取り組んでいる
	⑬ＩＣＴ教育	授業はＩＣＴ機器を積極的に活用して展開されている。
3 学校諸活動	①学習指導	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている
	②生徒指導	挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている
	④教育相談	教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる環境が整っている
	⑤部活動	部活動は活発に行われている
	⑥学校行事	本年度実施できた各種行事は、豊かな人間性の育成という目的を達成している
	③進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている
4 高大連携	⑫高大連携	附属高校化して仙台大学との連携・交流活動が進み、授業や実習などで成果があがっている
⑮自由記述（生徒） （保護者） （教職員）		日常の教育活動から、学校運営の良い点と思われることがあれば、記述してください 日常の教育活動から、本校教育で良い点と思われることがあれば、記述してください 日常の教育活動から、学校運営の改革に向けた御意見・御提言があれば、記述願います

4 全体の分析結果

- ※ 肯定的評価：「よく当てはまる」、「だいたい当てはまる」を合わせた評価
否定的評価：「当てはまらない」、「あまり当てはまらない」を合わせた評価

(1) 肯定的評価の割合が高い項目と低い項目〔それぞれ上位３項目〕

	肯定的評価の割合が●高い項目		肯定的評価の割合が▲低い項目	
生徒	① 質問５	部活動 (88.5%)	❶ 質問11	いじめ問題 (72.2%)
	② 質問10	施設設備 (86.9%)	❷ 質問１	学習指導 (74.3%)
	③ 質問14	総合満足度 (85.0%)	❸ 質問４	教育相談 (77.7%)
保護者	① 質問10	施設設備 (92.8%)	❸ 質問８	防災教育 (77.7%)
	② 質問14	総合満足度 (90.1%)	❶ 質問８	防災教育 (76.4%)
	③ 質問５	部活動 (88.7%)	❷ 質問11	いじめ問題 (77.0%)
教職員	① 質問５	部活動 (95.9%)	❸ 質問４	教育相談 (82.4%)
	② 質問11	いじめ問題 (91.7%)	❶ 質問３	進路指導 (73.0%)
	② 質問14	総合満足度 (89.2%)	❷ 質問２	生徒指導 (77.0%)
			❸ 質問９	開かれた学校づくり (79.7%)

(2) 前年度肯定的評価との比較

前年度と比較して差が大きい項目ベスト3		今年度	前年度	比較差
生徒	① 質問6 学校行事	79.2%	69.2%	10.0% 増
	② 質問4 教育相談	77.7%	73.9%	3.8% 増
	③ 質問11 いじめ問題	72.2%	69.0%	3.2% 増
	③ 質問14 総合満足度	85.0%	81.8%	3.2% 増
保護者	① 質問6 学校行事	88.1%	77.3%	10.8% 増
	② 質問8 防災教育	76.4%	70.8%	5.6% 増
	③ 質問9 開かれた学校	84.7%	79.5%	5.2% 増
教職員	① 質問6 学校行事	90.5%	74.3%	16.2% 増
	② 質問1 学習指導	90.5%	79.7%	10.8% 増
	③ 質問4 教育相談	90.7%	86.3%	4.4% 増

5 各学科毎の回答（資料1）

6 全体の分析・考察

- ① 昨年度と比較した回答率の特徴として、保護者が53.3%と低かったことから、一斉メールによる保護者への直接的呼びかけと生徒を通した間接的呼びかけを強化する必要がある。
- ② 質問項目（14項目）における生徒・保護者・教職員の肯定的回答について、昨年度と比較して全般的に上昇した。※〔昨年度比較上昇項目数〕生徒13項目、保護者9項目、教職員8項目
- ③ 今年度の肯定的評価の全質問項目の平均は、生徒79.9%（前年度77.6%）、保護者84.8%（前年度83.2%）、教職員86.7%（前年度85.0%）といずれも増加している。
- ④ 三者共通して肯定的評価の割合が高い項目として「部活動」「総合満足度」があげられる。一方、「いじめ問題」「防災教育」「教育相談」において生徒・保護者の肯定的評価の割合が比較的低いのに対して、教職員が高くなっており格差が見られた。
- ⑤ 「部活動」「施設設備」「総合満足度」の3項目が前年度に続き3者ともに肯定的評価の割合が高い。特に「総合満足度」が上位にあることは、各学科の教育活動全般が良く評価されていると推測できる。
- ⑥ 前年度と比較して3者ともに10%以上上昇したのが「学校行事」である。感染症が5類に移行したことにより、前年度実施できなかった学校行事の復活によるものと考えられる。
- ⑦ 「いじめ問題」について、生徒・教職員間で19.5%（前年度20.2%）、保護者・教職員間で14.7%（10.9%）の認識の差（いずれも教職員より割合が低い）が生じていることは課題であり、より踏み込んだ現状把握と対策が必要である。
- ⑧ 前年度比較で肯定的評価の割合が増加した上位項目は、3者共通の「学校行事」のほか、生徒は「教育相談」、保護者は「防災教育」、教職員は「学習指導」である。逆に、肯定的評価の割合が減少した下位項目については、生徒は「生徒指導」、保護者は「学習指導」、教職員は「進路指導」である。その理由等について、生徒や保護者については学科・学年ごとに、教職員については職員ごとに分析する必要がある。